

～明日佳グループ小野寺眞悟育成プログラム～
平成30年度 冬季プレミア U-12 サッカー大会

- 報告書 -

- 期日：2018年12月23日(日祝)～12月24日(月休)
- 会場：札幌ドーム アリーナ
- 主催：NPO 法人明日佳スポーツ・クラブ、(公財)北海道サッカー協会
- 主管：冬季プレミア U-12 サッカー大会実行委員会
- 協力：明日佳グループ、(一社)札幌地区サッカー協会、北海道チャレンジドサッカー連盟、(一社)エスポラーダ北海道スポーツクラブ、(株)札幌ドーム、(株)北海道新聞社

札幌市
さぼーとほっと基金
助成事業



大会開催報告 大会記録(開会式)

小野寺眞悟(明日佳グループ会長)挨拶



鈴木重男(北海道サッカー協会会長)挨拶



選手宣誓①



選手宣誓②



U-12 部門 参加選手



障がいのある小学生部門 参加選手



◆選手宣誓◆

U-12 男子部門:五十嵐 嶺(道北) U-12 女子部門:稲田 梨音(旭川) 障がいのある小学生部門:熊谷 皓太、岩間 絆

大会開催報告 大会記録(障がいのある小学生部門 1日目)

リスポと記念撮影



サッカークリニックの説明



吉田順省氏(元エスポラータ北海道)



サッカークリニック



ミニゲーム



笑顔で解散



1日目は21名の小学生が参加。札幌創成高等学校、北星学園大学付属高等学校のサッカー部員と参加者がペアとなり、サッカークリニックが始まった。ボールキャッチやシュート練習後、指導者とのミニゲームを実施し、ゴールを決めた参加者は、満面の笑みでハイタッチをし、観客やスタッフより大きな拍手が起こった。

大会開催報告 大会記録(障がいのある小学生部門 2日目)

サッカークリニック①



サッカークリニック②



U-12 部門女子チームと交流試合①



U-12 部門女子チームと交流試合②



U-12 部門女子チームと交流試合③



U-12 部門女子チームと交流試合④



1日目より少ない8名で実施したが、1日目同様、元気いっぱいボールを追いかけていた。サッカークリニック後、メインピッチにてU-12女子部門の空知FCガールズ、旭川女子トレセンU-12と指導者のサポートを受けながら交流試合を行った。

大会開催報告 大会記録(U-12 部門)

U-12 男子部門①



U-12 男子部門②



U-12 女子部門



U-12 男子部門 決勝戦①



U-12 男子部門 決勝戦②



U-12 男子部門 決勝戦③



◆U-12 男子部門◆

優勝:旭川地区 U-12トレセン

準優勝:函館地区 U-12トレセン

3位:札幌地区 U-12トレセン レッド

4位:釧路地区 U-12トレセン

◆U-12 女子部門◆

優勝:苫小牧女子トレセン U12

準優勝:空知 FC ガールズ

3位:旭川女子トレセン U-12

大会開催報告 大会記録(閉会式・表彰式)

鈴木重男(北海道サッカー協会会長)挨拶



メダル授与



U-12 男子部門 優勝 旭川トレセン



U-12 女子部門 優勝 苫小牧女子トレセン



U-12 男子部門 上位チーム集合写真



U-12 女子部門 上位チーム集合写真



◆表彰物◆

優勝:表彰状、トロフィー、メダル(人数分) 準優勝:表彰状、トロフィー 3位・4位:表彰状

大会開催報告 テレビ・新聞報道

北海道ニュースUHB

きょう きょう 1/9(水) 1/8(火) 1/7(月)

障がいある子どもたちののびのびと…札幌ドームでサッカー教室 ピッチに歓声

© 2018年12月24日19:32



パラリンピックなど障害者スポーツのすそ野を広げるための取り組みが道内でもスタート。障害のある子どもたちにサッカーを親しんでもらう催しが札幌ドームで行われました。

この催しは知的障害や体の不自由な子どもたちに、運動する機会が少ない冬も元気に体を動かしてもらおうと、北海道サッカー協会とフットサルエスポラダ北海道の運営法人が初めて企画しました。

23日と24日の2日間で札幌や函館などから20人が参加しました。

自分の気持ちを伝えることが苦手な子どももいて、最初は緊張した様子でしたが、エスポラダ北海道の元選手や高校生のボランティアからドリブルやパスのコツを教えてもらおうと、ぐんぐん上達。元気にボールを追いかけ、ゴールを決めて、ハイタッチして喜ぶ姿も見られました。

「楽しかった」人見知りだけど、サッカーで元気になるようになった。よかった」「楽しかった？(うん)」「体力つくのもあるし、好きなことが見つかるきっかけになるのかな」「障害者サッカーをもっと広められるよう、北海道から発信したい」

北海道サッカー協会は2020年のパラリンピックなどを見据え来年2月にも同様の催しを開く予定です。

【UHB(北海道文化放送) ホームページより抜粋】

北海道新聞 どうしん電子版

障害児らサッカー楽しむ 札幌ドームで「クリニック」初開催

2018/12/24 05:00



ゲーム形式でサッカーを楽しむ子どもたち (西野正史撮影)

障害者スポーツの発展を目指す「サッカークリニック」が23日、札幌市豊平区の札幌ドームで開かれ、知的、発達、身体などの障害がある小学生21人がボールを追う楽しみを実感した。

道サッカー協会とNPO法人明日佳スポーツ・クラブ(札幌)が取り組む「冬季プレミアU-12(12歳以下)サッカー大会」の一環で初開催した。

子どもたちはフットサルリーグのエスポラダ北海道で選手だった吉田順省(じゅんせい)さん(31)の手ほどきと、高校生や大学生の支援を受けながらシュートやドリブル、ミニゲームに挑戦。札幌平岸小1年の岩間絆(きずな)さん(7)は「ゴールを決められたのでうれしかった」と笑顔をみせた。

【北海道新聞社 どうしん電子版より抜粋】



冬だって思いっきりシュート



【北海道新聞 2018年12月24日(月) 発行より抜粋】

大会開催報告 参加者より

平成 30 年 1 月 7 日

公益財団法人 北海道サッカー協会
会長 鈴木 重男様

社会福祉法人札幌療育会
ノビロ学園 園長 遠藤 光博



拝啓

新春の候、貴社のますますのご繁栄のことと心からお喜び申し上げます。

さて、去る 1 2 月 2 3 日は、子どもたちの為にサッカー大会にご招待を頂き、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。子ども達は初めてのサッカー教室に少し不安もあったようですが、『楽しかった！また行きたい！』と思い出話に花が咲いておりました。子ども達からの感謝の気持ちと写真も同封させていただきますので、御目通し頂ければ幸いです。

最後になりますが、北海道サッカー協会の皆様の益々のご発展と、職員の皆様のご健勝を心よりお祈り致しております。

敬具



北海道サッカー協会の皆さんへ
サッカーにしょうたいしてありかどうござ
いました。
サッカーをしてみたいけどみんなと
いっしょにやるとかして楽しかった
です。
またみんなといっしょにサッカー
をしたいです

